

◆次の文章を読んで、後の問いに答えよ。(配点二十点 目安時間二十分)

注(1) 資季大納言入道とかや聞こえける人、具氏宰相中将に会ひて、<sup>注(2)</sup>「わぬしの問はれむほどのこと、<sup>注(3)</sup>何ごとなり

とも答へ申さざらむや」と言はれければ、具氏、「<sup>注(4)</sup>いかが侍らむ」と申されけるを、「さらば、<sup>注(5)</sup>あらがひたま

へ」と言はれて、「はかばかしきことは、片端も学び知り侍らねば、尋ね申すまでもなし。何となきそぞろ

ごとの中に、おぼつかなきことをこそ問ひたてまつらめ」と申されけり。

「まして、<sup>注(6)</sup>ここもとの浅きことは、何ごとなりともあきらめ申さむ」と言はれければ、<sup>注(7)</sup>近習の人々、女房

なども、「興あるあらがひなり。同じくは、御前にて争はるべし。負けたらむ人は、<sup>注(8)</sup>供御をまうけらるべし」

と定めて、御前にて召し合はせられたりけるに、具氏、「<sup>注(9)</sup>幼くより聞きならひ侍れど、その心知らぬこと侍

り。『むまのきつりやうきつにのをかなかくぼれいりくれんとう』と申すことは、<sup>注(10)</sup>いかなる心にか侍らむ。

承らむ」と申されけるに、大納言入道、はたと詰まりて、「これは、<sup>注(11)</sup>そぞろごとなれば、言ふにも足らず」

と言はれけるを、「もとより深き道は知り侍らず。そぞろごとを尋ねたてまつらむと定め申しつ」と申され

ければ、大納言入道、<sup>注(12)</sup>負けになりて、所課いかめしくせられたりけるとぞ。

注(1)資季：藤原資季 (2)具氏：源具氏 (3)わぬし：親しい物への敬称。そなた。 (4)あらがひたまへ：賭けをし  
て勝ち負けを争え (5)近習の人々：天皇、上皇に仕える人々 (6)御前：天皇、上皇の前 (7)むまのきつり：この  
時代によく言われた言い回しらしい。内容不明。 (8)所課：負けた罰として課せられたこと

問一 傍線部①②の語句の本文中の意味として、最も適當なものを一つずつ選べ。(各一点 計二点)

- ①はかばかしき 一、学問的な 二、芸術的な 三、日常的な 四、卑俗なこと 五、高貴なこと  
②あきらめ 一、明るく 二、戦う 三、蹴散らす 四、説明する 五、諦める

問二 傍線部アイウの助動詞の本文中の意味として最も適當なものを一つずつ選べ。(各一点 三点)

問三 傍線部一を現代語訳せよ。(四点)

問四 傍線部二の現代語訳として適當なものを次の選択肢から一つ選べ。(四点)

- ア、負けたくなかったら、ご馳走を準備しなければならぬ  
イ、負けてしまった人は、ご馳走を準備しなければならぬ  
ウ、負けそうになった人は、ご馳走を準備しなければならぬ  
エ、負けなかった人は、ご馳走を奉納しなければならぬ  
オ、負けたくなかったら、ご馳走を奉納しなければならぬ

一、意志 二、推量 三、適當 四、婉曲 五、断定 六、打消

問五 傍線部三について、なぜ「負け」となったのか、八十字以内で答えよ。(七点)